

歯科衛生士専門学校への入学勧誘を試みて

— 第 2 報 アンケート分析と私見的提言 —

鹿行支部 タナカ歯科 田中晃伸

今回、演者は個人的に専門学校への勧誘活動を行ったが、その活動の一貫として各高校における専門学校に対するアンケートを行った。内容及び結果に関しては第 1 報で述べ、第 2 報においては詳細な分析を行ったところ、昨今の専門学校への入学希望者の減少については衛生士雇用における問題点が、歯科医師会としての組織的問題が露呈したものと推察される。

今回のような勧誘においても、演者が個人的に行うものではなく、歯科医師会組織として長期的視野にのっとなって行うものであるが、過去そのような努力が組織的になされていなかったことが、今日の現状を迎えたのではないかと考える。

そこで、ひとつの例として会員の公正な視点において抜本的な提案として、昨今提唱され

ている奨学金制度のひとつに対しても、以下のような提言をするものである。

1．出身支部の入学者数割合によって、その負担金を出資する。つまり入学者数が多い支部ほど多く出資する。

2．卒業者が非会員歯科医院に就職した場合、即時返金を求める。（非会員への流出の抑制）

3．会員歯科医院に就職した場合、奨学金返済のある程度の免除（その免除分は、就労先歯科医院が負担）などはいかがであろうか。

以上、これらの問題はあきらかに予測できたにも関わらず、行動の具現化を怠ってきた関係各位は多いに反省すべきであると思われます。

さらには会長・副会長選挙の権力闘争に始まり、種々の政治的パフォーマンスを行って各支部を巡っている暇があったならば、歯科

衛生士育成のために、ひとつの高校の進学ガイダンスにでも行っていただきたいと思うのが、一末端会員の私的提言である。